令和２年２月 25 日

世田谷区立船橋希望中学校
校長　菅　野　　茂　男　様

世田谷区立船橋希望中学校
学 校 関 係 者 評 価 委 員 会
委員長　　鈴　木　　滋

平成 31 年・令和元年度　学校関係者評価結果報告書

学校関係者評価委員会において「学校評価システム」に基づき、関係者アンケート調査の結果の分析や自己評価の結果及び日常の教育活動・校外活動等について総合的な評価を行い、以下のとおり報告書を作成いたしました。

今後の教育活動及び学校運営にご活用いただき、船橋希望中学校（船橋希望学舎）がより一層発展されることを委員会一同、祈念いたします。

☆ 関係者アンケート調査結果の分析の観点と評価について

１、「とても思う」「思う」の割合の合計を「肯定的評価」と捉えた。

「肯定的評価」の割合が、生徒は 60％以上、保護者は 50％以上の項目を、「評価が高い項目」とした。また、生徒は 80％以上、保護者・地域は 70％以上の項目と、「とても思う」の割合が 30％以上の項目については、「特に評価が高い項目」とした。

２、「あまり思わない」「思わない」の割合の合計を「否定的評価」と捉えた。

「否定的評価」の割合が、生徒・保護者・地域ともに 25％を超える（４人に１人が否定的）項目を、「課題がある項目」とした。また、40％を超える項目や「思わない」の割合が 20％程度の項目については、「特に課題がある項目」とした。

３、「分からない」の割合については、25％を超える項目に注目した。

「分からない」の割合が多い原因を検討するため、生徒については、校長・副校長及び教職員に意見を求めた。また、保護者については、アンケートの「記述式のまとめ」や保護者会等での資料など、学校の広報の状況を参考にして分析した。

４、船橋希望中学校の前年度アンケート調査結果と比較して検討した。

本校の目標や達成するための取り組みを適切に評価するため、アンケート集計結果の分析については、以下の３点で評価した。

① 基本的には昨年度のデータと比較検討し、昨年度と同様、上記の規準により評価した。この報告書のカッコ（　　）内の数値は、昨年度の数値である。

② 生徒は 60％以上、保護者は 50％以上の「評価が高い項目」であっても「否定的評価」の割合が 25％を超える項目については「課題がある項目」と捉えて分析をした。

③ 学年毎の生徒と保護者の評価については、学年進行を考慮した比較検討も行った。２年生で１年生のデータと比較検討を行った場合、１年生のデータは《①　　》と表記した。３年生で２年生と１年生のデータと比較検討を行った場合も同様で、１年生のデータは《①　　》、２年生のデータは《②　　》と表記した。

５、保護者アンケートの「記述式のまとめ」の内容については、１人の意見を重視しすぎて、全体の状況を見誤らないように配慮した。また、少数ではあるが重要だと判断した意見については、分析に活用することとした。

☆ アンケートの回収率について

アンケートの回収率については、生徒 93,0%（30 年度 95.3%）（29 年度 95.3%）、保護者 72,9%（30 年度 75.2%）（29 年度 78.9%）、地域 39.3%（30 年度 45.7%）（29 年度 51.4%）であった。

生徒は、多少低下の回収率であった。生徒の回収率については、欠席者の様態にもよるが、100%になるよう、さらなる生徒へのアプローチを検討されたい。

保護者は、回収率の目標である 70%を超えたが、昨年度よりは低下した。回収率の向上に向けた広報活動・情報提供になお一層の努力を願いたい。

地域は、この２年間にわたって地域関係者への配布先の見直しを行い、配布数を限定した。しかし、今年度 39.3%であり、過去最低の回収率である。今後とも学校教育への参画による関係者の意見が反映され、生徒の社会的自立に必要な力をはぐくむ教育をより一層充実させるとともに、改善に直接つながる姿を見ていただくことが「カリキュラム・マネージメントスクール」である船橋希望学舎の使命と考える。

未来ある若者とともに「どんな人にとっても住みよい街―船橋希望」、「地域とともに子どもを育てる学校」として、アンケートのさらなる配布数と回収方法等を改善し、高い回収率を維持されたい。

＜評価項目に沿った評価＞

☆ 関係者評価・教職員の自己評価等を基にした本校の成果と課題

Ⅰ、重点目標への取組の成果と課題

平成 31 年・令和元年度の『「ことばの力」を基盤として、以下の重点目標を達成することを通して、知的活動の質をより一層高め、表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。』ことにつき、具体的な３つの数値目標について、それぞれ評価した。

１、学習指導要領（令和２年度・中学校、移行期間最終年度）の方向性と世田谷区教育要領を遵守し、指導方法の工夫・改善を図り、「学ぶ喜び」を育成する。

☆「私は、主体的に学習に取り組んでいる」と自覚できる生徒を８０％以上にする。

生徒は「１　学習指導について」(1)で評価した。

(1)［授業の内容はよく理解できる」87%（87）で、全学年とも非常に高い評価である。

３年生は「とても思う」の割合が 89%(91)を超えている。特に、平成 28 年度から教職員が先進的に新学習指導要領の内容について研鑽を積み、質の高い授業を実践し、工夫・改善に努めた成果である。しかし、「８（４）主体的な学習に取り組んでいる」68%（68）であり、自分ができることを考え実践する力を発達段階に応じて身に着けさせる教育課程上の意義や役割を再認識させる必要があり、あと一歩目標を達成することはできなかった。今後は、カリキュラムマネジメントの中心となるべき目標について教育課程等を通して実現化する方向をさらに進め、未来社会に対応した情報活用能力や問題発見・解決能力、諸課題に求められる資質・能力の伸長を図っていただきたい。

２、生徒・教職員ともに人権感覚を磨き、人間のすばらしさを感じ、一人一人が「人間愛」に満ちた集団を育成する。

☆「私は、友達など他の人たちを、認め合い、励まし合おうとする気持ちがある」と自覚できる生徒を９０％以上にする。生徒は、「８」（１）～（３）で、評価した。

「（１）私は、友達など他の人たちを、認め合い、励まし合おうとする気持ちがある」85%（89）と、肯定的評価が高い。3 年生は、「とても思う」38%（41）で、1 年生 28%（47）、2 年生 46%（33）であり、目標は達成されている。生徒は、他者との協働や外部との相互作用等、対話的な学びを通じて自らの考えを広げ深めていこうと努力していることがわかる。

保護者は、「２　生活指導について」（１）・（２）と、「11　学校全般について」（１）で、評価した。

「（１）社会のルールを守ることについて子どもたちに指導が行われている」93%（93）と、「（２）子どもたちに問題となる行動が少ない」89%(84)、「11(1)子どもは学校生活が楽しいと感じている」90%（92）と肯定的評価は高い。

地域は、「1 生活指導について」（１）（２）で評価した。

「（１）通学している子どもたちは、社会のルールを守っている」100%、「（２）通学している子どもたちに問題となる行動が少ない」100%と、特に肯定的評価が高い。

地域・保護者・学校の連携、協力による集団や社会の中で、自己を生かす集団活動や体験活動が充実し、信頼関係が結ばれている結果であると考えられる。

３、体力の向上を図り、健康を適切に管理し改善していく能力を身に付け、「未来に希望をもって生きる」生徒を育成する。

☆「私は、自分の健康に関心をもち、体力向上を心がけている」と自覚できる生徒を８０％以上にする。

生徒の独自項目「８（８）私は、自分の健康に関心を持ち、体力向上を心がけている」69%(70)と肯定的評価が高いが、3 年生の 33%(30)は否定的である。各学年ともに、目標を達成することはできなかった。

スーパーアクティブスクール実践校として、東京都体力調査において、２年生男子は、都の平均を大きく上回り、全国平均とほぼ同点であった。しかし、１・３年生男子は、まだ都の平均を下回っている。女子は、都の平均と同一である。

運動が不得手な生徒を対象にした軽運動プログラムのさらなる充実と各自の課題にあった「マイトレーニング・プログラム」等、生徒一人一人の体力向上のためのプログラムや教材を活用するなど運動への興味を高めることにより「保健体育の授業は楽しい」と課題等を通じて、興味と努力し続ける意思を喚起するとともに、健康の保持・増進や生涯にわたってスポーツに親しむ態度を養っていただきたい。

昨年度同様、三快運動（快眠・快食・快運動）を啓発する際に、基本的生活習慣の確立や生活リズムの向上につながる活動を指導の中に入れていただきたい。

Ⅱ、地域との連携・協働による教育の成果と課題

１、保護者・地域連携

「地域との連携について」保護者「９」・地域「５」で評価した。

学校運営委員会の活動について様々な課題を協議し、多くの場面で協力をいただいている姿について十分な情報が提供された結果、保護者・地域ともに認知度が向上し、多様な意見を反映

して運営されていることが窺える。

２、 地域運営学校（学校運営委員会）

校長の学校運営に関する基本方針を承認し、協議結果を「学校運営委員会だより」として着実に情報を提供している。また、学校支援コーディネーターに協力依頼し、保護者・地域・学校が共同して取組む事業等の検討及び承認を着実に行い、学校や地域行事等の地域人材の活用を推進している。さらなる創意・工夫を期待する。

３、 学校協議会等

保護者・地域とも、「９地域との連携について」の⑶の項目で評価した。

保護者は、学校協議会や合同学校協議会の活動について十分な情報が提供された結果、「特に評価が高い項目」である。

地域は、昨年度と同様本年度も「５（３）よく役割を果たしている」で評価したが、83%（30年度 86%）と十分な情報が提供された。今後も、エリア教育の中核である船橋希望学舎として合同の活動内容や活動の必要性について、さらなる地域の情報・総合の場として発信していただきたい。次年度からの幼稚園を含めた「せたがや１１$^{+}$」の新たな出発に期待したい。

４、ＰＴＡ活動

創立８年目を迎えた船橋希望学舎・船橋希望中学校は、子どもの成長につながる地域との絆を大切に、船橋中と希望丘中が統合した学校である。両校の伝統と実績に裏付けられたＰＴＡ活動は、各種委員会、各種行事等、教育環境充実のための工夫・改善や地域人材の積極的な活用に努め、積極的・協働的に活発な活動を展開している。

保護者・地域とも「地域との連携について」の⑴で評価した。保護者 76%・地域 91%とも、高い評価を得ている。保護者・地域と教員に十分な情報が提供された成果である。

特に、青少年の健全育成と地域の絆を深める大切な行事として、「ふなきぼ　de　フェスタ」を主催するとともに、中学校を卒業した子どもの保護者による「サポクラ（船橋中学校サポートクラブ）」の活動を通して、「地域とともに子どもを育てる学校」として、教育環境づくりに努めている。今後とも、保護者・地域の声を学校運営に生かし、活発な活動を期待したい。

５、 家庭教育支援

保護者・地域とも「地域との連携について」の⑵で評価した。

保護者・地域ともに、「学校が地域の活動や行事によく協力している」の肯定的評価は、保護者 85%・地域 92%と高く、学校と地域が良好な協力関係にある【（３）参照】と認識している。保護者・地域との連携は、全項目で高い評価である。

次世代を担う子どもたちの健やかな成長のために、さらなる家庭や地域の教育力を高めるとともに、家庭環境に応じた家庭教育への支援と情報提供を願いたい。

Ⅲ、「世田谷９年教育」で実現する質の高い教育の成果と課題

１、教育課程

学習指導要領・世田谷区教育要領に基づき編成し、生徒の資質・能力の伸長に努めているが、

生徒・保護者・地域・教職員に共通理解され、各教科等の年間授業時数の確保と管理が適切に行われている。

２、教育目標

「知・徳・体」の調和のとれた豊かな人間性の涵養をめざし、人格形成を図る教育について、

生徒及び保護者・地域にわかりやすく説明し、周知徹底を図っており、それは、生徒の行動によく現れている。教育目標の具現化を目指し、生徒は、「８　重点目標および数値目標（独自項目)」のうち、学校教育目標について(1)「私は、友達など他の人たちを、認め合い、励まし合おうとする気持ちがある」90%、(2)「私は、深く考えて行動しようとする気持ちがある」80%、(3)「私は、磨きあい、高め合おうとする気持ちがある」の項目 88%で、全般的には「特に評価が高い項目」である。

教育目標の周知とその定着への取り組みについては、生徒に浸透している。

保護者および地域については、組織的に「学年だより」（各学年とも週１回発行）やホームページ等で広報活動に取り組み、特に、地域 72%（30 年度 82%）と船橋希望学舎の活動等、機会あるごとに丁寧な説明に心がけており、目標が行動に反映されている。

校長講話及び「学校だより」、そして、生徒の発達段階による指導の仕方は異なるが、教職員の日常生活や特別活動等の働きかけ等の取組により、「教育目標」を３年間で身に付けさせようとする教職員の意気込みが伺われ、さらなる浸透が見られる。

３、学習指導

生徒及び保護者は、「１　学習指導について」の４項目で評価した。生徒・保護者ともに「評価が高い項目」で、学校の取り組みは良好である。

生徒の学習指導全般について、生徒全体で「肯定的評価」の割合が 80%を超えているのは、学校経営方針２－（１）学習指導（ア）教科等①～⑦により、指導目標・内容を明確にして指導計画を実践している成果である。生徒は、学習指導について満足しているが、知識・技能に限らず「自ら学び、考え、判断し、主体的に行動してよりよく解決する力」については、いま一歩である。「８（４）私は、主体的に学習に取り組んでいる」1 年生 27%（24)、2 年生 26%（38)、3 年生 30%（24）と、否定的評価が高い。自尊感情や自己肯定感を高め、自力で課題を追及・探究したことを発表する等、生徒一人一人の基礎的・基本的事項の確実な習得を図り、コミュニケーションの基盤である言葉の力を充実させ、論理的、科学的に考える力をもって課題解決にあたる「生きる力」をもった生徒たちの育成を図っていただきたい。

生徒は、「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫し、わかりやすく指導している」は 92%と、教員の日々の実践を通して、多様で質の高い学びを個々の生徒から引き出すことを意図した授業をめざし、工夫・改善した成果である。

教職員の自己評価も、昨年度と同様高い評価で、４校合同学習確認会議や授業改善の取り組みが進んでいる。ここ数年にわたり課題である授業の開始・終了時間については、昨年度より改善されてきている。日常の授業における「１分を大切にした授業」については、なお一層の改善を図られたい。

保護者は、全般的に学習指導について肯定的な評価をしており、「(１）子どもにとってわかりやすい授業をしている」74%(79)で、生徒は、「(１）授業の内容はよく理解できる」87%(87)と高い。しかし、保護者は、「(２）授業を通して生徒に学力がついている」71%（73）と期待値と異なる状況である。また、「(３）通知表で評価されたことは納得できる」80%（77）と学力に対する認知度は高いが、保護者の学習内容や学習指導に対する期待に評価の仕方に若干課題が残る。

評価基準・各教科等の観点別評価について、4 月の保護者説明会や学年集会等だけでなく、生徒には授業の際、保護者には、機会あるごとに詳しく説明し、周知する必要がある。「学年

だより」の充実により、各学年とも家庭と学校との連携が図られた成果が現れているが、学年進行とともに評価が低下していることに課題があり、さらなる理解の涵養に努めていただきたい。

「平成30年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」の「３　新たな教育活動の推進と理解」で、平成28年度から各教科の学習において「主体的・対話的な深い学び」（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業）を展開している。昨年度より研究開発校として「対話的で深い学び」を研究主題として、研究主任を中心に小中合同授業や新たな教育活動が粛々と進められ、生徒の言葉の力と豊かなコミュニケーション能力を生かして、未来社会を創造できる資質・能力をはぐくむことに力を注いでいる。

より質の高い教育をめざし、司書教諭と学校司書の連携のもと、グローバル社会に対応した学校図書館や日常的な情報通信技術（ＩＣＴ教育・特にタブレットＰＣ等）を活用して、基礎学力の定着のための効果的活用方法と教育環境の整備を図っていただきたい。

また、学習に関してまだ理解が十分でない生徒への対応として、繰り返し学習や質問教室、放課後学習支援、土曜補習（3年生）、夏季補習教室等、さらなる個に応じた指導の充実を図り、なお一層の創意工夫を期待いたしたい。

教科「日本語」の授業について、生徒は、１年生70%、２年生80%、３年生53%であり、教員は、85%が、肯定的評価である。各学年で教材・教具が整備され活用されているが、世田谷９年教育研究開発校としてテーマに沿った知識・技能を活用し、探究のプロセスを意識した指導と授業時数の確保とともに、年間指導計画の再考を図っていただきたい。

総合的な学習の時間については、「せたがや１１$^{+}$」を視野に入れた単元計画・年間指導計画・全体計画の工夫・改善に取り組んでいただきたい。

４、生活指導

生徒及び保護者・地域ともに「生活指導について」の３項目で評価した。

生徒は、３項目とも肯定的評価の割合が高く「特に評価が高い項目」である。生徒は学校の規則を守って行動し、教師の指導に納得して学校生活を送っている。思春期特有の自意識過剰や妄想にふけることなく、謙虚で、思いやりの心にあふれ、現在の中学校生活に満足し、自尊感情には改善の余地があるものの、誇りと自信をもって行動していることが伺われる。

教職員の自己評価から社会の一員としての自覚や生活ルールなど、生徒へのきめ細かな指導を実践していることが伺え、生徒自身の規範意識の高さが、評価の高さに反映していると考えられる。

生徒の教育相談活動に関しては、Q-U調査の実施、活動等を通して心の教育の充実を図り、青年前期の心の変化をとらえ、常に生徒が安心して学校生活を過ごせるようきめ細かな指導にあたっている。教員は、保護者からの相談に誠実に対応しているが、「本校の教員は子どものことの相談をしやすい」で、１年生は、67%である。相談しやすい環境づくりとカウンセラーや支援員等、多くの人が生徒とかかわる体制づくりのもと、いじめ防止基本方針や不登校問題、情報モラルの指導力向上等、適切に対応していただきたい。

保護者は、個別の学年では課題があったが、全般的には「評価が高い項目」である。中学校生活指導の内容や方法に対して、保護者の理解が深まっている。

地域は、生徒について肯定的評価が高く、地域での生徒の状況は極めて良好である。また、「学校行事に対して協力的」92%であり、教員の地域での行動も高い評価を得ている。しか

し、教員の自己評価では、地域行事への協力・ＰＴＡ活動等への参加については、今一歩であることは否めない。しかし、組織・運営の一部を担い、各方面において活動を支援していることの自負をもっていただきたい。

今後も、危機管理マニアルの見直しを行い、多面的な生徒理解や内的要因等の把握の深まりをとらえ引き続き指導するとともに、各家庭で指導すべきところは指導し、学校・家庭・地域が協力して生徒の健全育成に努めていただきたい。

５、道　　徳

カリキュラム・マネージメントスクール研究開発校として、年間指導計画に基づき、「対話的で深い学びの実践」をテーマに様々な人と議論したり協働して解決策を探求したりするアクティブラーニングの視点を取り入れ、授業の充実を図っている。人権尊重、豊かな情操や感性、規範意識、自己肯定感や主体性の育成など、社会の一員としての自覚と豊かな人間性を育てる教育の充実が進められている。

今後は、「東京都道徳教育教材集」などを活用し、教育活動全体を通じた充実が望まれる。

保護者向けビデオ資材などを活用し、「道徳授業地区公開講座」における意見交換会の活性化を図っていただきたい。評価については、生徒の学習状況を踏まえるとともに、知識・技能を日常生活の中で活用する力の育成を図っていただきたい。

６、特別活動

学級活動、生徒会活動、学校行事等におけるねらいと、キャリア教育・進路指導の視点を関連付けて計画を立て、授業を展開している。また、オリンピック・パラリンピック競技会を見据え、パラリアンを招聘しての講演や部活動の実技指導等を企画・運営し、心身の調和のとれた生徒の育成にあたっている。今後とも、定期的に改善を図り、組織的・計画的に横断的な指導に努めていただきたい。また、年間計画に対する予算措置についてご配慮いただきたい。

７、学校行事

生徒は「３　学校行事について」の３項目と「８　重点目標および数値目標（独自項目）」の（1）（2）（3）（6）で、保護者は「３　学校行事について」の３項目と「12　重点目標および数値目標（独自項目）」の(2)で、地域は「２　学校行事について」の３項目と「７　重点目標および数値目標（独自項目）」の(2)で評価した。

生徒・保護者・地域の学校行事の項目は、毎年「特に評価が高い項目」である。生徒は、活躍するチャンス（場面）が多く、行事を楽しみにし、保護者は、子どもたちが活躍している様子等から学校の取り組みを評価している。また、地域からも船橋希望中学校の学校行事が高く評価されている。「学校行事に対しての内容は充実している」が、昨年度から、100%であることからも伺うことができる。これは、教職員が生徒の主体的な参加や行事の工夫・改善に取り組んでいる成果である。

特に、行事の目的・目標を完璧なまでに達成しようとする主体性・自立性が発揮され、自治活動による生徒の実践力が、自己肯定感や主体性をはぐくむきっかけとなっている。今後とも、省察的に実践を重ね、伝統として進化できる学校文化の形成に期待したい。

８、体育・保健教育・食育

保護者の「11　学校全般について」の(4)で評価した。

3 年間のスーパーアクティブスクール校としての取り組みを基に、学校教育全体で計画

的・継続的・組織的な進行に努め、高い評価である。

特に、保健体育課を中心に、生涯にわたり心身の健康を保持・増進する資質・能力の享受を願っている。食育の充実に向け、オリンピック・パラリンピック給食を実施し、新たな情報を発信している。食育リーダーや栄養士を中心にして、様々な地域の人との連携を図り、学習指導要領を踏まえ、全教育活動において食育が効果的に行われるよう配慮していただきたい。

９、キャリア教育・進路指導

生徒は、「４　進路指導について」の３項目で、保護者は、「４　進路指導について」の４項目で評価した。

生徒は、昨年度と同様、他の項目に比べて低い評価である。⑴「将来の生き方や進路について考えさせる授業がある」について、副教材「私たちの進路」の活用方法を工夫・改善した結果、肯定的評価 80％（82）、否定的評価 20％（18）となった。また、⑵「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分ある」62％（64）と教職員の自己評価も高いが、3 年生 80％《②56％》2 年生 64％、1 年生 46％であり、生徒が評価する時期によるが、課題が残った。 (3)「進路に関する情報が十分提供されている」も同様で、肯定的評価 70％(67)、否定的評価 20％(20)である。また、「分からない」の割合が 1 年生 17％(20)、２年生 9％(15)と、課題が残った。

2 年生を対象とした勤労観や職業観を身に付けさせるために、職場体験を実施し、共同学習を取り入れた授業を行い、「思考力・判断力・表現力」の育成を図っている。ぜひとも継続していただきたい。なお、船橋希望学舎以外で学校生活を送ってきた生徒への支援についてご配慮いただきたい。いつでも相談できる雰囲気づくりと、上級学年が行っている進路の取り組みを「学年だより」等で紹介するなど、より一層の周知を要する。

保護者は、４項目とも「評価が高い項目」となったが、社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力の育成について具体的なキャリアイメージをもたせ、生徒自ら学ぶ態度をはぐくむことについては、いま一歩である。また、進路相談については、１・２年生で個人面談など相談の機会はあっても効果的に活用されておらず、特に、1 年生で「分からない」の割合が高い。系統的・計画的なキャリア教育を推進するための 3 年間にわたる全体計画の周知が課題である。

また、学校経営方針「２（３）特別教育」にある「障害のある生徒の自立をめざして、生徒一人一人の能力を最大限に伸長する」に関して、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の、さらなる充実と支援体制の整備を図っていただきたい。

10、世田谷９年教育

生徒は、「７　学校全般について」の⑶で、保護者は、「８　広報活動・情報提供について」の⑸と「９　地域との連携」の⑸で、地域は、「４　広報活動・情報提供について」の⑸で評価した。

生徒は、「船橋希望学舎」の区立小学校（船橋小・希望丘小・千歳台小）との交流について、「あいさつ運動・小６見学会・学芸発表会」等に一部の生徒は関与しているが、否定的評価 36％（34）、「分からない」21％（22）であり、生徒全体の交流は、いま一歩である。

保護者は、「学舎」の活動について、生徒の「あいさつ運動」や各小・中学校のＰＴＡ

の交流や講演会が行われ、保護者に「学舎」が十分に認知され、情報提供についても、「８　広報活動・情報提供」の成果である。

カリキュラム・マネージメントスクール研究開発校として、研究主題を「対話的で深い学び」とし、教育活動の充実に向け、演劇的手法やＮＩＥと学校図書館の活用について研究発表を行い、船橋希望学舎として教職員の小・中相互の授業参観や合同研修会等により連携体制がたいへん充実している。「教職員の研修・研究」は盛んに行われ、「学び舎の日」を活用して研修会等、公開授業・教科分科会が定着し、昨年度同様、児童・生徒の学力向上に大きな成果をあげている。

しかし、一昨年度より生徒の否定的評価が高いのは、研究開発校としての取り組みとは別に、児童・生徒の直接的な交流が得にくいことによると考えられる。地域を含め、船橋希望学舎ならではの地域活動等、さらなる異年齢集団による交流活動を活性化させ連携・協働方法の工夫・改善と、さらなる情報発信を継続していただきたい。また、幼児、児童・生徒一人一人の発達を支える視点から、「せたがや１１$^{+}$」として、幼稚園との連携を通して、系統的な指導に期待いたしたい。

11、特色ある教育活動

船橋希望学舎の教育目標・重点目標に基づいた教育活動が適切に行われている。「８（９）私は、ＮＩＥタイムやＮＩＥコーナーにより、新聞に興味をもつようになった」46％(42)、「8（10）新聞を読むことによって、自分の考えをもてるようになったと思う」45％（41)。学習指導要領の完全実施（令和３年度）に向け、「情報収集、整理、発信するなどの学習活動」について、引き続き取り組んでいただきたい。

今年度、学校図書館との連携で、成長段階に合わせた読書の質の向上と読書環境の整備に向けた取り組みとして、小学生に図書委員が推薦する本の紹介を「図書だより」に掲載し、学び舎４校の図書室に掲示した。また、長期休業中の本の貸し出しを学び舎の小学生４年生～６年生児童・保護者を対象に本校図書室において実施した。

生涯を通じて学び続ける場として、図書館機能の充実を図っていただきたい。

12、特別支援教育

インクルーシブ教育システムの推進に向け、多様性を尊重する態度の育成や障害のある生徒たちとの交流及び共同学習を実践する。

生徒一人一人のニーズに応じた「すまいるルーム」の円滑な運営と指導・支援の充実に向けて、施設・設備の有効活用と総合的な支援体制の整備に取り組んでいただきたい。

13、部活動

生徒・保護者は、「５　部活動について」の３項目で評価した。

生徒の部活動全般についての評価は、複数顧問制等を採用して企画・運営面において工夫されてきており、肯定的評価 85％(87) と高い評価である。また、校庭・体育館等を含めた施設の面や中学生として望ましい部活動の回数と時間についても、スケジュールの再考等を通して理解が深まってきている。

保護者は、部活動が全般的には適切な指導のもと充実しており、生徒が活躍していると感じている。近年、部活動支援及び地域行事等に積極的に参加する姿勢が見られる。

教職員は、自己評価での部活動の活発さの肯定的評価が高いが、組織的実施の評価が若干低い。外部指導員や支援員等を活用する取り組みを継続し、課題解決に努めていただきたい。

Ⅳ、信頼と誇りのもてる学校づくりについて

1、学校経営・学校運営・「学び舎」による学校運営

保護者は「６　学校運営について」の⑵と⑶で、地域は、「３　学校運営について」の⑵で評価した。

学校経営・学校運営に関しては、「学校全体にかかわる広報活動の充実」の取り組みの成果で、肯定的評価が向上し、保護者・地域から高い評価を得ている。また、「学び舎」の取り組み内容や計画が明確で、校内や合同学習確認会議など効率的に活用し、組織を効率的に運営している。２年間にわたる研究開発校としての成果を次年度に活かしていっていただきたい。

校長のリーダーシップによる全教職員の共通理解と共通実践等、学校の総合的チーム力を発揮し、教育活動を活性化させ組織的に学校運営や教職員の指導にあたることにより、学校の取り組みや教職員の姿勢が高く評価されている。また、教職員の自己評価からも校長を中心に教職員が協力して教育活動に取り組み、ＰＤＣＡサイクルにより、組織的な学校運営が営まれている。船橋希望学舎として、主体的・自律的な働きが、教育活動の成果を基盤にしたカリキュラム・マネジメントの実施と「チームとしての学校づくり」を進めている。

今後も広報活動に取り組み、学校経営・学校運営や教育活動について、保護者・地域に発信していただきたい。

２、学校評価

評価に必要な情報（学校からの配布物）や教職員の協力が適切に提供され、保護者や地域との連携・協働による行事や協議会等を通して、教育活動への意見を効率的に取り入れ、世田谷マネージメントスタンダード「世田谷９年教育」の理念を踏まえた生徒たちの学びの充実を図っている。諸評価については、学校のホームページを参照されたい。

３、教職員

生徒は、「６　先生について」の３項目で、保護者は、「７　教員について」の２項目で、地域は、「３　学校運営について」の⑶と⑷の２項目で評価した。

教職員が様々な場面で熱心に指導しており、生徒・保護者ともに教員の指導には満足している。

生徒は、３項目とも全学年で評価が高く、課題解決にあたり様々な場面で熱心に指導していることが伺われる。聴く姿勢についても、全体として生徒一人一人に丁寧な対応を行っており評価が高い。今後とも、生徒の話を聴く機会と場の設定などの工夫が望まれる。

教員の指導の公平性については、改善されてきているが、その場の状況や対応する姿勢・態度によって生徒の評価は分かれ、課題が残った。指導場面や対応時の状況によって、生徒個々の受け取り方や感じ方は心の動きに大きく左右されることがあるので、数値のみでの判断は難しい。指導場面でのさらなる工夫と生徒一人一人と丁寧に話す時間や機会を意図的につくり、「心に響く指導」を期待したい。

保護者・地域については、保護者は「８　広報活動・情報提供について」の⑵「本校は、保護者に対し、丁寧に説明や対応をしている」の評価も合わせて評価した。

この項目も昨年同様評価が高く、地域の評価と総合的に判断すると、保護者・地域に丁寧な説明や対応で高い評価を得ている。しかし、保護者の教員と「話しやすい雰囲気」については、個別の学年で課題が残った。平成 31 年度改善方策「絆を確かに、豊かな人間関係を

創る」を実践してきたが、保護者が来校した際には、職員室など様々なところで相談しやすい環境を設定していただきたい。

さらに、服務事故防止や根絶につながる研修を引き続き充実させ、継続して取り組んでいただきたい。

４、研究、研修

本校創立８年間の歩み（人権尊重教育・道徳教育・少人数習熟度別授業＜数学・英語＞・ティームティーチング＜音楽・美術＞・ネスコスクール加盟校である持続発展教育（ＥＳＤ）・ＮＩＥ教育等）の中で、研究推進・指定校としての検証実績と全体計画の実践年度として取組んできた。この２年間は、「世田谷９年教育」研究開発校、カリキュラム・マネージメントスクールとして、「学び舎」研究会や校内研究会を通して、内外に発信し、生徒の学ぶ意欲の向上と教員の授業実践力を高め、質の高い授業を提供することができた。

船橋希望学舎全体の教員の取組として展開され、高いレベルの研究成果や生徒の変容も顕著にみられる点が、高く評価される。

「せたがや１１$^{+}$」として、継続研究を基に、さらなる学舎の充実を図っていただきたい。

５、保健管理・衛生管理（学校環境・学校給食）

学校保健の年間指導計画により、計画的に適切に行われている。なお、教職員のメンタルヘルス事業の周知・啓発を図っていただきたい。また、保護者の「10　学校の安全性について」⑸で評価した。

今年度も学校環境・学校給食について、日々の献立内容をホームページに掲載し、学校が生徒の安全確保に努力していることが認知され評価が高い。特に、食物アレルギー疾患のある生徒への予防に関する対応や発生時に必要な緊急対応について、丁寧に対応している。

また、「世界ともだちプロジェクト」の取り組みの一環として、学習・交流対象８か国の料理を給食で紹介し、国際理解の一助として国々の多様性を尊重することを学んでいる。ぜひとも継続していただきたい。

学校保健委員会等を通して、健康指導が行われている。継続して衛生管理に努めていただきたい。

６、安全管理

保護者は「10　学校の安全性について」の⑴～⑶の項目で、地域は「６　学校の安全性について」の⑴・⑵の項目で評価した。

学校の安全性については、学校で生徒の安全確保に努力していることが認知され評価が高い。また、安全指導・避難訓練や災害時の保護者・地域との協力などについても評価が高く、学校の取り組みが理解されている。また、地域の避難所としての役割が十分に理解され、組織・運営面においても改善されてきている。今後は、「防災ノート」等の活用と、地域での救援活動に貢献できる人材の育成やボランティア活動のさらなる活性化に努めていただきたい。また、危機管理マニュアル等の活用を徹底することを願いたい。

なお、来校者の入校については、昨年度同様、危機管理上、再確認願いたい。

７、広報活動・情報提供

保護者は「８　広報活動・情報提供について」の項目で、地域は「４　広報活動・情報提供について」の項目で評価した。「Ⅰ　重点目標への取組の成果と課題」と同様、「学校だより」、毎週発行される「学年だより」、学校支援組織運営部によるホームページ等で、生徒の

様子など様々な情報を確実に発信してきたことで、保護者の知りたい情報が盛り込まれ、高い評価を得ている。また、生徒への指導の場面や保護者会等で丁寧な説明や対応に心がけた結果、学校の様子がよく発信できている。

地域も保護者と同様に、改善方策が確実に実施された成果で、肯定的評価の割合が高い。しかし、情報機器の急速な発達によりスマートホンによる情報交換やホームページへのアクセス数が増加傾向にある。時代に即したさらなる情報発信の方法や内容、形態について、ご検討願いたい。

８、出納、経理

教育目標の具現化をめざし、教育活動を支えるための諸条件の整備、改善を基本として、適正化、効率化を一層充実させることを目標にしてきた。具体的には、予算執行計画の策定・予算管理、契約等・物品管理・施設管理・給与、旅費、福利厚生・就学援助事務等、適時適正及び正確迅速に努めた。予算執行状況等の報告を、計画的に進めていただきたい。

９、文書、情報管理

個人情報の管理、文書管理を適正に行うとともに、文書の進行管理を正確適正に行い、遅延防止に努めている。

Ⅴ、安全安心と学びを充実する教育環境の整備の成果と課題

１、施設・設備

保護者は「10　学校の安全性について」⑷で、地域は「６　学校の安全性について」(3)で評価した。

施設・設備の安全性の確保だけでなく、教育環境としての整備が進んだことの認識が保護者・地域に浸透し、高い評価である。日常的な施設・設備の点検は、率先して適正に管理職が行っているが、施設・設備の不備や変更の状況について可能な限り、保護者・地域への丁寧な説明や広報を願いたい。

また、生徒数に対する教室・学習空間の確保は、得難い。検証のうえ、教育環境の配備を願いたい。

Ⅵ、学校生活全般の成果と課題

生徒は「７　学校全般について」の(1)と(2)の２項目で、保護者は「11 学校全般について」の(1) (2) (3)と(5)の４項目で評価した。

生徒は、学校全般について、教職員の様々な努力により、生徒が満足していない教育活動は若干あるが、「とても思う」という評価が 50％前後である。教職員の様々な努力により、現在の中学校生活に十分に満足しおり、今後も生徒にとって、「楽しい学校」82％(82)・「好きな学校」84％(84)であり続けるように、教職員の様々な努力を継続していただきたい。

保護者についても、「子どもは、学校生活が楽しいと感じている」90％(92)で、「学校全体に活気がある」94% (94) と感じている。また、「教育活動に満足している」85%(88)と満足度は非常に高い。

スクールカウンセラーや支援員の役割についても 77％(79)と高い評価で、保護者に周知されている。

＜総合所見＞

校長の経営方針のもと、カリキュラム・マネジメントスクール研究開発校として、「対話的で深い学び」をテーマに教育活動の充実・改善に向け、2年間の成果を発表した。

生徒の言語活動の充実をめざして、演劇的手法やＮＩＥタイム、新聞を活用した学習活動やＩＣＴを活用した学習活動など、アクティブラーニングの視点に立った授業の展開により、コミュニケーション能力・思考力・判断力・表現力・課題解決能力の伸長に努めた。

また、教科等の枠を越えて共通に行う学習活動を重視し、教育課程全体を見渡して確実にはぐくむことに努めている。

『明るく、元気で、さわやかな、職員室』は、地域とともに子どもを育てる船橋希望学舎としての様々な工夫・改善を重ね、研究実績を日常の学校生活に生かし、「知・徳・体」のバランスの取れた教育活動と教育環境の整備等をさらに進めていっていただきたい。

今後とも、生徒・保護者・地域にとって新制「せたがや１１$^{+}$」として、「好きな学校・楽しい学校・誇れる学校」であり続けるよう、さらなる期待を寄せております。

＜学校関係者評価委員＞

委員長	鈴木　滋	（事務局）副校長	小杉　英夫
委員	阿部　由岐子	教務主任	大居　純
委員	加藤　伸昭		
委員	坂田　真友紀		
委員	宮幸　朱美		